

3 研究のまとめ

(1) 成果

○県内の公立小・中学校における校内研究の推進・充実のための方策を作成することができました。

- ・ 年間を通じた校内研究におけるPDCAサイクルに基づいたチェックリストを作成し、各段階における手立ての工夫について提案しました。
- ・ 校内研究の取組の共通理解と日々の実践の積み重ねを図るための具体的な手立てとしてワークショップ型の研究会を提案しました。

○校内研究の推進・充実のための方策を、授業研究会等、校内研究の取組において実践することで、各学校の校内研究の取組の共通理解と日々の教育実践の積み重ねを、以下のように図ることができました。

- ・ 自由に意見が言える雰囲気の中で教師は思いや考えを自主的に述べやすくなり、協議の場が活性化されることにつながりました。
- ・ 授業研究会において授業を参観する視点を明確にすることで協議の内容が焦点化され、校内研究の取組の共通理解が深まりました。
- ・ 協議したことを基に、5W1Hで日々の実践に生かすための計画を立てるなどの手立てを取ること、改善を繰り返しながら日々の実践につなげようとする意欲につながりました。

○ワークショップ型の研究会は教師が校内研究の取組を共通理解し、各学校における研究の成果を教育活動に生かそうとするための手立てとして有効であることが分かりました。

(2) 課題

○ワークショップ型の研究会を目的に応じたものにするためには、以下の手立てによる運営が必要であると考えます。

- ・ 指導案や参観の仕方などについての事前説明や協議の目的の共有化を図るための事前の準備
- ・ ファシリテーターの役割についての事前確認
- ・ 参観の仕方や研究会についてのプレゼンテーションソフトなどによる説明資料の提示
- ・ 教師の意見を反映させた研究会の運営

○研究会の協議の場の活性化など、PDCAサイクルにおけるDの段階の改善を実践しました。研究を進めていく中で、D以外の段階での計画や準備に手立てが必要であることが明確になりました。校内研究の更なる推進・充実のために、研究主題と実践方法の共通理解を図る手立てや、実践の評価と改善などについて研究することが重要であると考えます。

(3) 終わりに

本研究の1年次の実態調査及び2年次の実践を行うことで、本研究の成果と課題を明らかにすることができました。これからは、本研究について県内小・中学校の教師に紹介する機会をもち、各学校の校内研究の推進・充実に役立てていきたいと考えています。

本研究の取組に際し、実態調査に御協力いただきました佐賀県内の全公立小・中学校、並びに、校内研究の推進・充実のための方策の実践に御協力いただきました研究推進協力校4校の職員の皆様へ感謝申し上げます。